

令和5年度宇都宮市「女性のデジタルスキル習得・就労支援事業」事例紹介

場所や時間にとらわれず、キャリアを歩むために | 株式会社UZUZ川畑翔太郎氏

宇都宮市の女性のデジタルスキル習得・就労支援事業は、働くことを希望する女性が在宅でのテレワークなど柔軟な働き方で就労できるよう、女性デジタル人材を育成し、就職・再就職・リスキングの後押しをするとともに、経済的な自立につなげることを目的とする事業です。

今回は10名の受講生を輩出し、それぞれ学んだことを生かしながらキャリアを築いています。事業を終えた受講生が、現在実際にどのような働き方をしているのか、また今後求められている働き方とはどのようなものなのかを株式会社UZUZ川畑翔太郎氏に伺いました。



株式会社UZUZ川畑翔太郎氏

株式会社UZUZ専務取締役。鹿児島出身で高校卒業後、九州大学にて機械航空工学を専攻し、住宅設備メーカーINAX(現:LIXIL)に入社。1年目から商品開発に携わるも、3年目に製造へ異動。毎日ロボットと作業スピードを競い合う日々を送る。自身のキャリアチェンジのため、UZUZ創業に参画。現在はウズウズカレッジ(IT教育)事業統括だけでなく、キャリアアドバイザーとしてキャリアコーチング事業、企業ブランディングを担当。これまでに累計2,000名以上の就業サポートを実施。

一本日はよろしくお願いいたします。近年、“多様な働き方“や”柔軟な働き方“が頻繁に議論されていますが、こういった働き方のニーズの高まりを感じる瞬間はありますか？

男女問わず、ニーズの高まりは感じます。例えば、子育て中の女性がそういった働き方を求めているのではないかと感じる瞬間は多々あります。

私が考える柔軟な働き方とは、“時間や場所に囚われずに自分の生活の時間に合わせて働く”という働き方です。そういった方に、業務委託契約で業務やプロジェクトを依頼することが社会としても今後増えていくように感じます。

—実際にこのような働き方を希望する方はどのような職種の方ですか？

あるアンケートによると、職種としてはライティング・webデザインが半数を占めているという結果が出たそうです。弊社ではwebライター・エンジニア・講師・広報・デザインなどの幅広い職種で業務委託人材を活用しています。

—今回の事業の卒業生も3名含まれているとのことですが、どのような業務を依頼しているのですか？

依頼内容は、動画教材のスライド資料作りやInstagramの画像作成などです。動画教材のスライド資料作りは、講師の台本を元に図解資料を作ってもらい、スライド構成を考えて図や表を配置してもらった業務で、業務習熟度によって依頼内容を変化させています。

また、弊社では事業としてキャリア支援を行っていることもあり、業務を始める前に時間をかけて面談を実施しています。面談の中で、現在の状況やニーズ・希望の働き方を聞きながら業務を依頼しています。

—働く側が業務委託で企業と契約をする際に気をつけるべきこともありますか？

業務委託という働き方を続けられる人の特徴は、納期を守ることができる人です。納期遅れが発生してしまうと企業としてリカバリーする必要があります。また、納期に遅れてしまう要因として業務時間が取れていなかったり業務量が多かったりということが考えられます。そのためこれ以上の業務は依頼できないという判断をする場合もあります。

リモートでの業務はフォローがしにくい環境でもあるため、何かあった時はすぐに相談する「報連相（ホウレンソウ）」が大切です。

また、業務上のコミュニケーションはchatworkというチャットツールで行っています。依頼する際にはフォーマットを揃えて伝える、マニュアルと一緒に送付するといった点は依頼時に心掛けています。初めての業務や分かりにくい業務の場合はZOOMを使用し口頭で補足説明などの時間を設け、丁寧なコミュニケーションを取っています。

—今後こういった領域で業務委託人材の活用が進んでいったほしいなどの展望はありますか？

事務職での業務委託人材の活用は今後進んでほしい分野の一つです。例えば、事務職をしていた方が子育てなどの理由で退職後、スーパーでパート勤務しているという話を聞くこともあります。事務職は環境さえ整えばスキルを生かして場所や時間問わず働ける職種ではないでしょうか。

事務職での業務委託人材の活用が広がらない背景として感じているのは、企業側のデジタル化が進んでいないことや業務をディレクションができる人材が不足していることです。業務全体を把握し、役割やタスクに切り出して割り振る人材が今後必要になると思います。

ー 最後に企業がこういった人材を活用する時に気をつけるべきことを教えてください。

雇用契約によって無意識の区別（差別に近い感覚）をしている方がいるように感じます。

「正社員だから」「アルバイト・パートだから」「業務委託だから」という雇用形態で区別する考えは捨てて欲しいと思います。

あとは業務委託人材を活用したことがないのであれば、まず一度活用してみるということが大切なのではないのでしょうか。今後、労働人口が減少していき、人手不足で衰退してしまう会社も増えてくる中で、雇用形態にとらわれない働き方が広がっていくと感じています。